

【給食協会賞】身近なことが教えてくれること

作野小学校 井澤 祐華

「なぜ給食というのがあるのだろうか。」私はふとそんなことが頭に浮かんだ。お昼になれば給食を食べているけれど、お腹を満たすのであれば弁当を持ってくればいいし、好きな物を入れられ、嫌いな野菜なんか入れなくてもいい。それなのになぜ給食ができたのだろうか。普段、当たり前のように食べていることなので気に留めることもしなかったし、深く考えもしなかった。だから余計に気になり調べてみることにした。

調べてみると主だった理由は、この三つだった。一、成長期にバランスの良い食事を摂取し、体を健康にすること。二、正しい食習慣を身につけ、食育をすること。三、生命や自然の大切さ、環境問題を学ぶこと。私はもやもやしたが、何かすつきりせず、もやもやとした気持ちが残った。そこで、いろいろな人の意見を参考にしたいと考え、クラスのみんなや先生、家族に給食の意味や良さとは何かアンケートをとることにした。その結果は、二十九人中十人がクラスのみんなとの共同作業を通してより良い関係性を築くこと。七人が給食を作るために関係している人のありがたさを知ること。五人が健康のため。三人が地域の特産物を食べることで日本の食文化を知ること。が大体の理由であった。自分だけでは気付かない点も多くあり、なるほど私は納得した。確かに食器を運ぶ際、クラスみんなが協力し準備を手伝っているし、係でもない人がナフキンを

当たり前のようにひいて協力し準備している。毎日のくり返しで、学び実践しているのだ。何気なく食べている給食も私たちのために健康を保つため栄養のバランスを考えメニューを作る人、食材を運ぶ人、実際に料理を作ってくれている人など、多くの人が関わっている。また、食材は昔から使われた物や育てた物でできていて、地域の文化を知る上でも役に立っている。残さず食べることは、フードロスを減らし、環境問題やSDGsを学ぶきっかけにもなっている。私は、今まで普通のように食べていた給食がとても素晴らしいように思えてきた。それにこんなものが身近にあったのも驚きだ。

私はこの機会を通していろいろなことを知ることができた。私たちは一週間に五回給食を食べている。その何気ない普段の行動にいろいろな意味や学びがあり、私たちが成長しているような教材になつていたのだ。だから給食があるのは私たちの体を健康にするのとともに私たちの心も成長させてくれるからなのではないか。私はこの経験をを通して給食以外の身近なことにも興味を持ち、さまざまな角度から考え、周りの人の意見を集めたりして、知識や経験を深めていきたいと思った。